



幸地学の世界

ギセイニナル
ヒトウヒトウ
(犠牲になった人々)
1997年

☆4

ギセイニナル
ヒトウヒトウ
(犠牲になった人々)
1997年

1997年

米軍兵士による暴行事
件のニュースはパリに住
む幸地の元にも大きな衝
撃波として伝わって
いた。沖繩の米軍基
地の話になると長電
話になることも少な
くなかった。

「象のオリ」住民
投票」など一連の動
きにも熱い関心を寄
せ、日米や、沖繩と日
本の歴史的構図や、
現代社会のマイノリ
ティーの処遇など、
その矛盾を怒った。
この「ギセイニナ
タル ヒトウヒト
ウ」の作品は幸地の
沖繩シリーズの中
でも最もシリアスなテ
ーマの作品である。

赤黒く血に染まった空
爆撃機から投下される爆
弾、人々を踏み殺し襲い
かかる戦車と兵士。追わ
れる作品の一つとなつた。
(画廊沖繩代表・上原誠
勇)

最もシリアスなテーマ

れ、カンパーをつかまれ
タマシヌカスオバー。に
らみ合う住民と兵士、亀
甲墓の中で狂った
集団自決のかま。
沖繩戦の模様を美
的に確に象徴的に
描きこいてる。

幸地は一九五四
年生まれである。
とうぜん戦争は知
らない。これほど
直裁に沖繩を告発
した絵を私は見た
ことがない。戦争
を知らないから描
けたのだろうか…。
この作品は、沖繩
の美術を語る時、
社会的リアリテ
ィを考える意味で
重要な。沖繩の歴史

や美術史の中でも特筆さ
れる作品の一つとなつた。
(画廊沖繩代表・上原誠
勇)